

設立趣旨書

現代社会における核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化、さらに情報環境の複雑化により、子育て世帯の孤立が深刻化しています。特に都市部においては、近隣とのつながりが乏しい中で保護者が育児の不安を一人で抱え込み、心身ともに疲弊するケースも少なくありません。こうした状況下で、子どもや若者たちもまた孤立し、家庭や学校以外の「サードプレイス（第三の居場所）」を失っています。利害関係のない信頼できる大人と出会う機会が減少し、多様な価値観に触れながら安心してありのままの自己を表現できる環境が不足していることは、子どもたちの健やかな成長や自己肯定感の形成に大きな影響を及ぼす重大な課題です。

私たちは、子育て家庭や子ども・若者が「地域社会全体で見守られている」という確かな安心感を得られるよう、居場所づくりを通じて「心の通うつながり」を構築することを目指します。これまで、川崎市多摩区を拠点とする任意団体として、主に三つの活動を継続して参りました。乳幼児親子の居場所「おしゃべりサロンあゆみ」では、専門家を交えた講座等を通じて育児不安の軽減と地域ネットワーク形成に取り組みました。また、若者の居場所「つながるカフェ」では、大学生ボランティアと共に10代の若者が安心して過ごせる場を運営し、世代を超えた支え合いを促進しています。さらに、意識啓発事業「希望のバトンをあなたに」では、代表の経験をもとにした講話を行い、参加者同士で意見交換を重ねる機会を設けることにより、地域社会全体で子どもを見守る意識の醸成に取り組んでいます。近年は、地域の他団体と積極的に連携を図り、支援の現場を「点と点の繋がり」から「面としての広がり」へと昇華させることで、居場所を必要とする人々が自らの意思で最適な場所を選択できる環境を整えて参りました。

今後は法人格を取得することで、これまでの活動頻度をさらに高め、支援を必要とする方々へより安定的・継続的な場を提供して参ります。また、現在の実績を基盤に、多摩区以外の地域にも活動拠点を広げ、地域格差のない広域的な支援体制の構築を目指します。さらに、行政や他団体との協働事業を深化させ、公的な受託事業を担えるだけの強固な組織基盤を確立することで、地域社会における多世代共生の仕組みをより確かなものへと成長させて参ります。かつて支援を受けた者がその経験を活かして次の支援者になる「循環型」のコミュニティを構築し、地域全体で子どもたちを育む「希望のバトン」を次世代へと繋いでいく決意をいたしました。

本法人の名称「あゆみ YELL」には、誰もが自分にとっての大切な一步を踏み出せるよう、一人ひとりの歩みにエールを送り合える社会を作りたいという願いを込めております。社会的信頼性の高い法人格を取得し、責任の所在を明確にし、情報公開による透明性を備えた組織となることで、社会課題の解決に持続的に寄与すべく、ここに特定非営利活動法人を設立するものであります。

2026年5月16日

法人の名称 特定非営利活動法人 あゆみ YELL

設立代表者 大庭 美代子